

第9回



多階層システム医学シンポジウム

2026年 **11月28日** (土)

13:30-17:10

会場 山口大学小串キャンパス 第1講義室
(山口県宇部市南小串1-1-1)



Zoom配信あり

**参加費
無料
(要予約)**

先端医療AIと
LLMの臨床実装

リアルワールドデータ
(RWD) がつなぐ
次世代がん医療

地域医療イノベーション
と社会実装の実践例

システムバイオロジーと最新の医療技術を融合し、難治性疾患研究や治療法開発を加速するシンポジウム。
第9回はAIやリアルワールドデータ (RWD) の活用にあたり、地域医療とがん医療の未来を展望します。

Program

13:30~

来賓挨拶

13:45~

リアルワールドデータが駆動する次世代がん医療
ー多施設データ基盤からLearning Health Systemへー
京都大学大学院医学研究科
リアルワールドデータ研究開発講座 特定教授

松本 繁巳



14:35~

地域医療イノベーションとRWDの取り組み
ー沖縄における、AI・オンライン診療・RWDによる医療課題解決ー
株式会社リュウエル 代表取締役
琉球大学先端医学研究センター 特命准教授

泉 晃



15:45~

医用AIの臨床実装に向けた検討：
オンプレミスLLMによる臨床・研究支援
山口大学大学院医学系研究科・医学部附属病院
AIシステム医学・医療研究教育センター 教授 (特命)
細胞デザイン医科学研究所 システム医学情報研究部門

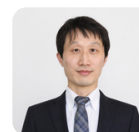
中津井 雅彦



16:25~

保険者・健康管理アプリ由来データを用いた
労働生産性損失の機械学習予測
山口大学医学部附属病院精神科神経科 講師
細胞デザイン医科学研究所 システム医学情報研究部門

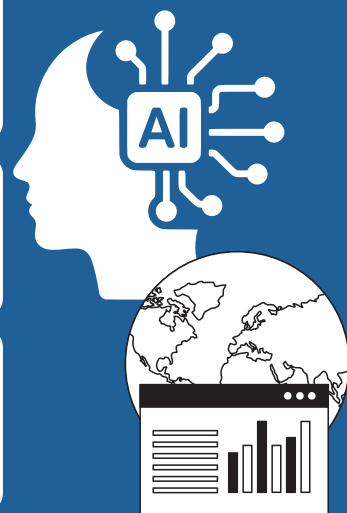
陳 冲



17:05~

閉会挨拶

山口大学細胞デザイン医科学研究所 所長 **玉田 耕治**



申し込み方法

こちらの二次元コード
を読みこんで、申込を
お願いします。



【お問い合わせ】

AIシステム医学・医療研究教育センター事務局



0836-22-2229



aismec@yamaguchi-u.ac.jp

Abstract

リアルワールドデータ（RWD）は、診療実態を記述する情報基盤から、医療を継続的に学習・進化させる知識基盤へと転換しつつある。本講演では、多施設RWD基盤の構築と実装の課題を踏まえ、臨床情報、画像、病理、検査・ゲノム情報をAI・標準化技術により統合する試みを示す。さらに、データ二次利用を通じ、個別化医療、研究開発、医療の質向上を循環的に支えるLearning Health System実現の展望を論じる。

京都大学大学院医学研究科
リアルワールドデータ研究開発講座 特定教授

松本 繁巳



沖縄県は医療資源の偏在が大きく、離島住民や外国人など、既存の医療提供体制では十分に医療が届きにくい層を抱えている。

リュウエルは琉球大学発のヘルステックベンチャーとして、デジタル技術とAIを活用したオンライン診療を沖縄で社会実装し、地域医療が抱える課題の解決に取り組んでいる。

また、地域医療から得られるRWDを活用し、研究やSaMD開発へとつなげる取り組みを進めるとともに、日本RWD学会を立ち上げ、RWD利活用の標準化、人材育成、産学連携を通じて、臨床データを研究・社会実装へ橋渡しする活動を推進している。本講演では、沖縄における地域医療の実装事例と、日本RWD学会を通じたRWD利活用の取り組みについて紹介する。

株式会社リュウエル 代表取締役
琉球大学先端医学研究センター 特命准教授

泉 晃



機微な情報を含む医療分野では、クラウド型LLMの利用に大きな制約が伴う。本講演では、院内稼働のオンプレミスLLMによる臨床実装の試みとして、電子カルテからの疾患レジストリ用データ抽出、およびがん精神療法CALMの面談音声分類の2事例における最新の進捗を報告する。さらに、セキュアな研究支援環境の構築を目指した対話型AIやAIエージェント基盤の実装検証も紹介し、院内計算基盤整備の課題と展望を論じる。

山口大学大学院医学系研究科・医学部附属病院
AIシステム医学・医療研究教育センター 教授（特命）
細胞デザイン医科学研究所 システム医学情報研究部門

中津井 雅彦



健康問題に伴う労働生産性損失は、個人の生活と社会経済の双方に影響するが、多くは顕在化した後に把握される。本講演では、保険者のレセプト・健診情報と健康管理アプリの質問票・歩数を個人単位で連結した大規模縦断データを用い、機械学習により将来の欠勤、出勤時の生産性低下、日常活動障害を予測する研究を紹介する。予測性能に加え、それを支える情報にも目を向け、日常的に蓄積される健康データを予防的支援へつなぐ可能性と課題を論じる。

山口大学医学部附属病院精神神経科 講師
細胞デザイン医科学研究所 システム医学情報研究部門

陳 冲

